

I 名詞的用法

1. S になる (形式主語 it を利用した構文も可能)

To understand this theory is very difficult. この理論を理解することはとても難しい。

= It is very difficult to understand this theory.

2. SVC の C になる

My dream is to visit Greek. 私の夢はギリシアを訪ねることです。

3. SVO の O になる

I like to play the piano. 私はピアノを弾くことが好きだ。

4. SVOC の O になる (形式目的語 it を利用する)

I found it easy to learn Italian. 私はイタリア語を学ぶのは簡単だと分かった。

5. SVOC の C になる

I asked him to call an ambulance. 私は彼に救急車を呼ぶよう頼んだ。

The doctor advised me to take a walk every morning. その医師は私に毎朝散歩を行うように忠告した。

II 形容詞的用法

1. 修飾される名詞が不定詞の主語「～する」「～しうる」「～できる」

He was the first person to solve the problem. 彼はその問題を解決できた最初の人だった。

2. 修飾される名詞が不定詞の目的語「～するべき」「～できる」「～するための」

I have a lot of things to do. 私はすべきことをたくさん持っている。

3. 修飾される名詞と不定詞が同格「～するという」「～する」

My sister broke her promise to call me every day. 私の妹は、私に毎日電話をよこすという約束を破った。

III 副詞的用法

1. 目的「～するために」

I went to the park to play basketball. 私はバスケをするためにその公園へ行った。

2. 原因・理由「～して」「～する(した)ので」

I'm glad to see you. あなたに会えて、私は嬉しい。

3. 判断の根拠「～するなんて」

You are careless to say such a thing. そんなことを言うなんてあなたは不注意だ。

4. 結果「…した。その結果～した」「…したら～した」「…して～した」

I awoke to find myself surrounded by strangers.

私が目を覚ますと、私が見知らぬ人たちに囲まれているのが分かった。

※この用法の連語

only to do 「…したが、残念ながら～だった」 never to do 「…したが、二度と～しなかった」

5. 形容詞の意味を限定「～するという点では」「～するのにな」

This book is difficult to read. この本は読むのが難しい。

6. 特定の形容詞を修飾する慣用的な用法

He is apt to walk fast. 彼は速く歩きがちだ。

7. 独立不定詞

To tell the truth, I don't like this room. 実を言うと、私はこの部屋が好きではない。

IV 特殊な用法

1. be + to 不定詞

- A. 予定「～することになっている」
- B. 義務「～すべきである」
- C. 命令「～しなさい」
- D. 可能「～できる」 ※主に否定文で用いられるので実際は「～できない」の意味になる。
- E. 運命「～する運命にある」
- F. 意図「～しようと思う；～したいと思う」

※たんに I-2.の用法「Sは～することである」の場合もあるので注意すること。

※if 節内の仮定法過去 were to do は「(もし) 仮に～すれば」の意味になる。

2. 疑問詞 + to 不定詞「～すべきか」「～いいのか」(名詞句を作る)

I didn't know how to go to his house. 私は彼の家へどのように行けばいいのか知らなかった。

The question is when to travel abroad. 問題は海外旅行にいつ行くべきかということだ。

3. in order to do, so as to do 「～するために」「～するように」

※Ⅲ-1.と同じ意味(より意味が明確に)。また、so that S' can[will, may] do の構文で書き換えられる。

4. too ... to do 「～するにはあまりにも・・・」「あまりにも・・・なので～できない」

I was too tired to play with my brother. 私はあまりにも疲れていて弟と遊ぶこともできなかった。

※この構文は、so ... that S' V' の構文を用いて書き換えることができる。

I was so tired that I couldn't play with my brother.

5. ... enough to do 「～する(できる)ほど・・・」「充分・・・なので～する(できる)」

6. so ... as to do 「～するほど・・・」「・・・なので～する」

7. 助動詞 used, ought の目的語として

原形不定詞の用法

I 助動詞の目的語となる

1. 助動詞 will, would, shall, should, can, could, may, might, must の目的語として

2. 助動詞 need, dare の目的語として(通例、疑問文・否定文)

※need, dare には、to 不定詞を目的語にとる一般動詞としての用法もある。

3. 助動詞 do の目的語として

- A. 一般動詞の文の疑問文・否定文をつくる際に用いる。
- B. 文頭に否定語がある場合などの倒置文で用いる。
- C. 強調のために肯定文で用いる。

II SVOC の C として

1. 使役動詞 make, have, let の文で

She made her daughter learn Chinese. 彼女は娘に中国語を習わせた。

He let his brother use his computer. 彼は弟に彼のコンピュータを使わせた。

※この原形不定詞は、受動態では to 不定詞になる。

2. 知覚動詞の文で

I saw my sister kiss him. 私は、妹が彼にキスするのを見た。

※この原形不定詞は、受動態では to 不定詞になる。